

自由を楽しもう

酪農家 大津 美保子



▶大津さんご一家

先日、仙台から後輩の女の子がやってくる一泊して行きました。綿羊牧場に面接を受けに来たというのです。とても大柄な彼女に羊が小さく見えました。

「なぜ羊なのよ。牛もかわいいと思っよ」と言つと、ただ笑つてい

ただでしたが。いつの間にか、昔の自分の姿とダブらせていました。

夏休みの牧場実習に来た時、協同牧場に就職した時、一緒に働くおじさんおばさんに、よく言われました。

「なんで牛がいいのよ」

「仙台の方が、楽しいべ」と。

都会で生活している人々は、北海道や大自然に憧れるものです。私も、その一人です。旅人としてはなく、北海道人になりたいと思いました。

それ以上に、牧場生活に憧れていました。朝早くから、熱いお湯で、でかい牛の乳をふいて、乳を搾ることに。

牛たちを広大な緑の牧草地へ放すことに。

そして、陽が沈む夕方の搾乳時

間まで、のんびり草を食べる牛を眺めることに。

草の香りと、牧場の空気が、何よりの私の活性剤になると思いました。

牛の糞が汚いとか、臭いとか、大変だとか、考えもしませんでした。動物が糞をするのは当然ですから、その始末をするのも当然なのです。

自然や動物相手に楽しみたいと思いました。だから、私が牛飼いに憧れたのも自然の成り行きかもしれません。

わが子五人が、牛舎へ手伝いに行くのもまた、自然の成り行きかもしれません。

いま五年生の娘は、朝、哺乳乳をして学校へ行つて「臭い」と言われてしよげた時もありました。

でも今では、友達を呼んできては、牛を見せたり、さわらせたりしています。

先日、牛の好きな同級生を呼んできました。一泊して、夕方と朝の乳ふきを教えていました。牛飼いの子供として、胸を張れるひと時です。二人の友達のうち、一人



▲健康な牛たちに囲れて

は乳をふきたくてやってきたのに怖くてしょげていました。

でも私と一緒にふいたら、できたのです。

「やったーやったー」と、大喜びでした。

子供たちのお手伝いは、一種の遊びです。乳ふきをしながらネコを抱いたり、牛舎を走り回りながら掃除したり、と。

また、この搾乳タイムが、父子のコミュニケーションになっていくことは、最大のメリットです。牛や乳の話を変えながら学校や友達の話へと広がります。今では、牛について、経営について、自分の考えや質問が、ボンボンと飛び交います。

家族で自由に話し合えることはストレス発散にもつながります。牧場で働いていた独身時代、自分のための時間はたくさんありました。蛇の出そうな山の中で昼寝をしたり、人の入ったことのない林へ探検に行ったり、好奇心はおさまりませんでした。

それでも林田は、ちよつと牛をさわりに牛舎へ出かけました。

搾乳時間には唯一、牛にさわることができます。それが、子供たちの楽しみにもなっています。ミルカー二台しかありませんので、待つ時間もありません。忙しくはありません。

急ぐ必要が、どこにあるのでしょうか。急いでも、のんびりしても人生です。怒つても楽しんで人生です。それなら、のんびり楽しむほうを、私は選びます。

百姓は自由なんです。人生も自由なんです。

いま私は、パン作りに凝っています。油で揚げてみたり、中味を変えたり、チョコなどでデコレーターしてみたり。いろいろ実験しては、友人に味見をしてもらいます。たえず粉をこねているので、ズボンは粉だらけです。

子供は五人とも、粉をこねた経験があります。手伝わされるからです。ついには、娘にこんなことを言われました。

「お田さん、パン屋さんになつたら？」と。

夫は、手作りのドブコウに酔っています。遠くから友達が来る時

モーモー・メッセージ

1995・10 No. 21

乾草あげ

大津 美保子

何事もやってみた人でなければ分からない。この乾草あげもそう、毎年、モーモー・メッセージに書いているけど読む人ははたして飽きないだろうか？

熱い太陽、ぬるまゆい空気、吹き出る汗、良い乾草なら軽く感じて、軽快なリズムでどんどん積み上げられる。なのに、悪い乾草なら同じ重さでも重く、気だるく、そして溜め息さえ出る。勿論疲労感も残る。今や機械の時代、家のようにコンパクトに縛って、夫婦でトラックに積んで、乾草舎に下ろすなんてこと、今どき珍しいだろう。時間もかかるし、疲れる。

だけど、なんと言っても、汗を流す快感、仕事をやりとげた充実感、子供も手伝える家庭的なことはやってみた人でなければ分からない。

毎年毎年、あとどの位入るかな？と乾草舎を覗く。日に日に乾草でいっぱいになる様子を見ると満足、逆に春近くに、乾草が減っていくと、さあ今年もたくさんの草をとらなきゃとやる気が出る。

牧場実習でも、これだけは、星や月を見ながらの作業も仕方ない。次の日雨となると終えてしまわなければいけないから。

でっかい缶コーラは北海道にしかないと思った。なんたつてうまかった。搾れば水が出てくる程Tシャツはびしょぬれ、顔や手足に乾草がへばりついたってかまわない。どんなに汚れ、日焼けしたってかまわない。家族みんな同じだから・・・

何事もやってみた人でなければ分からないでしょう。乾草あげは最高、充実感。

発行者 大津 美保子

北海道瀬棚郡北檜山町丹羽 4 5 1

TEL.FAX 0 1 3 8-4-4 7 2 8

や親が来る時など自ら台所に立つのです。今は新米を使い、天然の水を山までとりに出かけて楽しもうです。

利害関係は二の次です。楽しければそれでいいと思っています。人生、暇つぶしの想い出づくりだと思っていますから。

入植して間もなく作つた盗食槽ですが、牛が舐めたりして上のほうはだいぶ減っています。十年間の牛の暇つぶしでしょうか。

牛もゆとりがあれば、健康でいられるでしょう。

只今、夜間「よさこい踊り」の練習をしています。学芸会で母親も踊ることになったのです。だから、少し早めに搾乳を始めます。とにかく、百姓は自由です。自由を大いに楽しむべきです。

百姓ならではの自由を、大自然の中で使いこなせなければ、辛くなると思います。

自由は、そして農業は、人間を育ててくれると思います。